

こころに吹く風は…<カウンセリングルーム便り>



暑い暑い夏でした。3回目のコロナ禍の夏休み、明るく笑う子どもたちの元気な姿が、大きな救いであつた夏でしたね。まだまだ闘いの日々は続いていくのでしょうか。まずは大人たちが明るく元気であるために声を掛け合っていきたいものです。

大切な人がそばにいてだけで

須藤 暁子

一緒に過ごせる長い夏休みが終わった。いろいろなところに行ったり、おいしいご飯を食べたりした。「この夏休みで楽しかったことは？」私が問うと、息子はこう答えた。「ママがずっといたこと！」自信満々だった。そっか、すごいね。それでいいんだ。

大人になって忘れてしまうことを、もう一度お母さんは君に教えてもらっている。

どこに行くより何をするより、大切な人がそばにいて一番ありがたいことだよ。

「甘えさせる」のは「わがまま」を黙認することではない。窪田 容子

子ども時代に、十分甘えさせてもらえた子は自己肯定感があり、自分のことを大切にしながら周囲の人を大切にできるようになっていきます。寄り添ってくれた親への信頼感が周囲の大人への信頼感へと広がり、友達や先生、近所の人など他の人に関心を持ち、安心して人と関わることができるようになっていきます。

① 子供は本来、欲求の塊です。必要な欲求には応えて甘えの充足感を与え、わがままな欲求には適切な対応で助長させず、我慢という自己抑制力をつけさせましょう。

② 年齢が離れたきょうだいの甘えには同等に扱わずに個別に対応して、わがままの助長や軌道を外れた甘やかしをしないよう心掛けましょう。

<ものを欲しがるとき> 子どもが欲しがると、なんでも買い与えるのはNG 年齢別対応を。

<3歳～4歳> 「欲しい、買って」は大人と同じ意味で言っているのではない。スキンシップや声掛けであきらめることもある。「こっちを向いて」のアピールであることも。

<5歳～6歳> 友達と同じものを欲しがったら、本当に必要かどうか時間をかけて親子で検討する。

<7歳～9歳> 「みんな持ってる」が定番のおねだり。無下に却下せず、耳を傾けてから、誕生日などイベント日まで待たせて「自制心」や「がまん力」をつけることも大事になる。